

第 18 回薬学同窓会学術講演会（平成 28 年 11 月 18 日）備忘録

今回、大正製薬株式会社セルフメディケーション研究開発本部長 高橋健三博士（第 22 回生、薬理学講座修士修了）をお招きした。講演タイトルは「**Low-hanging fruit** は美味しいか？」で、なかなか手が届かない果実だからこそ、そこに挑戦する面白さがあることを、大学時代から現在までの経験を踏まえて熱くお話しいただいた。



高橋氏の学部時代でのライフサイエンスへの目覚め、薬理学への憧れにはじまり、これまでの様々な経験と、その時々によどのように考えて取り組んできたかについて丁寧に説明していただいた。その内容は薬理的な事や、誘導体化・構造最適化、創薬戦略、そして OTC/健康食品戦略と幅広く、生物系、有機化学系、そして医療系の全ての学生に対して大変興味深い話であった。特に現在のセルフメディケーション研究開発においては、生活者のニーズ、視点を捉え、よく解析することの重要性、そして **Segmentation**、**Targeting** そして **Positioning** が製品開発には重要であることを説明いただいた。これは大学での研究では見落としがちな点でもあり、また大学運営、部局運営、研究室運営としても、さらには 1 人ひとりの研究にも通じる基本概念として大変感銘した。同じところに留まらずに、常に新しいことに挑戦する気持ちが大事であることを述べられたことも、出席した多くの学生たち、教職員の胸にも大きく響いたと思われる。

名誉教授であり、高橋氏の恩師でもある佐藤進先生にも講演会、そしてその後の懇親会にもご参加いただいた。久しぶりに高橋氏と、佐藤進先生のお話をお聞きして、しばし 40 年ほど前の気持ちに戻ることができた。



今回、大変お忙しい中、ほぼ徹夜で講演の準備をしていただいたとの事、改めて感謝の意を表したい。（平澤典保）